

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2021

事業所番号	2693100030		
法人名	株式会社キャビック		
事業所名	すいーとハンズ物集女 1階		
所在地	京都府向日市物集女町五ノ坪21-4		
自己評価作成日	2022年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和4年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの蔓延により、2年前から徐々に運営推進会議やボランティア活動など、外部の人との関わりを持つ機会がなくなりました。入居者には少しでも日常生活を豊かに過ごせるようにと、外部交流ができない中で何が出来るのかを話し合い、レクリエーション活動に力を入れる事で、入居者が毎日、明るく元気に過ごせるように季節に応じたレクリエーションを実施しています。施設の中では担当者が週間レクリエーションファイルを作成し、毎日楽しくレクリエーションの提供ができるようにしています。月に1度は季節に応じたレクリエーションを実施。例えば、人が密にならないような場所を選び、外出を定期的に行ったり。外食が出来ない代わりに、外食店のテイクアウトを利用して施設で外食気分を味わう等の活動に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市の南部、長岡京市に接した向日市の物集女通りに面して建つグループホームである。開設10年あまりになる。法人はこれまでのグループホームの経験が多く、利用者へのきめ細かい配慮とケアを中心に、運営している。管理者は交代がsるものの、職員は異動は少なく、常に管理者を中心にした業務に取り組んでいる。コロナ禍の状況が続くなか、感染に注意を「払いながら、一人ひとりの利用者への思いやケアをチームワークよく考えながら、取り組んでいる。利用者の笑顔、喜びを自分のこととして、対応している。地域のひとや家族との連携が困難ななかで、職員の強い思いが監事られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2021

事業所番号	2693100030		
法人名	株式会社キャビック		
事業所名	すいーとハンズ物集女 2階		
所在地	京都府向日市物集女町五ノ坪21-4		
自己評価作成日	2022年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	令和4年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの蔓延により、2年前から徐々に運営推進会議やボランティア活動など、外部の人との関わりを持つ機会がなくなりました。入居者には少しでも日常生活を豊かに過ごせるようにと、外部交流ができない中で何が出来るのかを話し合い、レクリエーション活動に力を入れる事で、入居者が毎日、明るく元気に過ごせるように季節に応じたレクリエーションを実施しています。施設の中では担当者が週間レクリエーションファイルを作成し、毎日楽しくレクリエーションの提供ができるようにしています。月に1度は季節に応じたレクリエーションを実施。例えば、人が密にならないような場所を選び、外出を定期的に行ったり。外食が出来ない代わりに、外食店のテイクアウトを利用して施設で外食気分を味わう等の活動に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の事業所理念「ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、職員も共に支え合い、優しさで笑顔あふれるすーとハンズ物集女にします」を玄関に掲げ、いつでも家族、職員、地域の方に共有できるようにしている。	以下の項目すべて2階に同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、運営推進会議の開催を中断している。その代わりに、ホームの現状を上長で話し合った内容施設内会議の議事録を内容を家族、関係者に送付し、周知できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に市役所を訪問し、施設の報告書の提出、運営推進会議の代わりに行った会議の議事録を提出し現状を伝えている。大きな事故があれば、役所に出向き事故報告書の提出と説明をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者には一番に、身体拘束適正化の説明を行っている。身体拘束適正化の研修は年に最低2回は実施している。身体拘束委員会は3か月に1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題点を抽出し、虐待防止の徹底に努めている。 「教育・知識・介護技術」、「ストレスや感情コントロール」、「性格や資質」、「倫理感や理念の欠如」、「人員不足や人員配置」		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使われている方は現在いないものの、その制度や内容を理解しておく事は必要な事なので、研修に取り入れる等で理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とは、契約時に、契約書、重要事項説明書の読み合わせを行い、当日に押印を求めずに、一旦自宅に持ち帰って精査する期間を設ける事で、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、運営推進会議は中止され、家族の面会も制限されているので、電話や、短時間での面会時に、普段の様子を伝えたり、意見、要望を聞いている状況。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルスの蔓延防止の観点から、職員が会議室に集まったの会議は3密になるので、毎月の会議の代わりに、職員からの意見、要望を管理者に提出し、その内容を上長で話し合い、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握は、管理者が一括して勤務表の作成を行い、基本的なシフト上の残業ゼロを目標にしている。評価表での人事考課を行い、職員の就業意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはOJT制度を利用。管理者が研修会の講師となり、勉強会を開催している。外部研修についてはコロナ禍での参加は困難なので行えていない。今後はズームでの外部研修があれば、取り入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日は笑顔でお迎えをして、積極的にコミュニケーションを図る中で、要望を聞き、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時に、不安な事や要望の聞き取りを行い、ケアプランに反映する。入居後、暫くの間は家族に毎日の過ごし方や様子について連絡をして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活習慣などは出来る限り継続できる形を取り、それを組み込んだホームでの生活を支援します。必要があれば他のサービス利用も柔軟に対応できるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、やりたい事の聞き取りを行い、何か役割を持ってもらう。職員と共に行える事なら信頼関係を深める事ができ、一人で出来る事があればそれを担える喜びがあり、生活の質の向上にもつながる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話をかけた際に日頃の様子を伝えているが、何かあれば、こちら側が一方的に決定をせず、家族の考えも取り入れ、共に支えられるように、時に外出をお願いする事でコミュニケーションを図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、面会室で時間制限があるも、家族以外に、知人やペットにも会えるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が間に入り援助する事で、良い関係性を築き、孤立する利用者が出ないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居しても、転居先の施設の相談員から元気になっているのかを聞く事がある。家族の中には転居後も介護の相談でホームに訪ねて来る事があり、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の聞き取りの他、家族から契約時に、生活歴や、今までの暮らし方の情報を書面にして提出してもらっている。情報が少ない時には日々の会話や面会時、ケアプラン説明時に希望、意向の聞き取りを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族をはじめ、病院、施設やケアマネから情報収集し、全職員が情報共有できるようにフェイスシートを作成。会議や申し送りや伝え、情報が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時の視診で普段との違いを伺い、バイタル測定や食事量を併せて見る事で心身の状態を把握するように努めている。必要に応じて、看護師に連絡し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリングを行い、状況把握した上で、3ヵ月毎にHL、L、CM、担当で話し合い、ケアプランの見直しを行っている。家族には電話連絡時に希望、要望を聞き、プランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿った記録等を記録している。その他、気付いた事は送りノートや訪看・往診ノートに記録。大きな変化があればカンファレンスを行い、ケアプランの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中や、家族面会時の話の中から希望やニーズを把握して、個別レクや受診の支援をしている。各々に合ったケアの提供をする為、福祉用具の検討などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動などは、コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約している病院から、月に2回委託医による往診(看護師の付き添い有り)と週1回の訪問看護により利用者には適切な医療を提供している。往診後に変化があれば家族連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に、利用者状況を確実に伝える事ができるようにファイルを用意し、職員が記録出来るようにしている。また24時間相談出来る体制を取り、何かあれば適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院にはすぐにサマリーで情報提供している。早期退院を目指すように、医療連携室とやり取りをしている。隊員が決まれば、病院、家族とムンテラを行い、退院後、スムーズにホームの生活に戻れるように連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については契約時に延命するかの同意書を作成して、家族に意思確認をしている。ターミナルケアは行わない旨を契約時に家族に伝えている。症状の悪化や重度化した場合、主治医の指示に従って対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルを日中、夜間別に作成し各階に設置し、すぐに対応できるようにしている。新人が夜勤を始めるときには夜間の救急搬送時の想定訓練や初期対応について研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についてはあらゆることを想定して避難方法を職員に周知できるように日々取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活習慣等を尊重し、プライドが損なわれないよう、その方に合ったケアや声かけをするように心がけている。また、飲み物や着る物を自分で選択する事で、自己決定が出来る環境を整えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をする場合でも、こちら側から行動する事に制限をせず、したい事をしたいように出来る環境作りをしている。職員に余裕がある時は、利用者との会話の中で、その方の思いが汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は9人の利用者を2～3人で介護するので、時には業務優先になってしまう事がある。希望に沿えるように支援したい気持ちはあるも、現状なかなか対応ができていないように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服を職員と一緒に選んでいる。月に一回、訪問理美容でカットと髪染めをして髪を整えている。髭剃りは毎日行い、清潔を保持している。汚れた衣類はすぐに交換し、身だしなみ、清潔に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽をかけて、ゆったりとした雰囲気ので食べれるように努めている。好みや嚥下状態が違うので、各々の食事形態で提供。盛り付け、テーブル拭き、トレー拭き、食事の号令等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食共に、摂取状態に合わせた食事形態で提供している。アレルギーのある食品にも代替食で対応。食事、水分量は記録し、状況に応じて医療に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を、食後は口腔ケアを実施。状況に応じて、全介助、一部介助、見守りにて口腔内の清潔保持に努めている。異常があれば歯科と連携し、早急な対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録からつかみ、その方に合った時間帯でのトイレ誘導を行う事で、失禁を減らし、リハビリパンツやパッドの使用を減らせるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては、定期薬や屯用で薬が処方されているが、適切な水分補給や運動、便通の良くなるヨーグルトや繊維質のある食事提供する事で、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの性質上、現在の入浴状況は、入浴表で管理し、一日で3人程度の利用者が午後の時間で入浴している。入浴頻度は週に二回程度。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝には居室の空気の入れ替え、掃除を行い、週に一回シーツ交換を行い、季節に合った寝具を提供している。眠れない時は職員が話を傾聴し、安心してもらえる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用についてはファイルに綴じて、いつでも確認出来るようにしている。服薬方法には十分に配慮している。変化があればすぐに医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を確認し、ご本人から、したい事、出来る事、好きな事等を情報収集し、楽しみ事や役割を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず定期的な外出は施設運営上、家族やご本人の同意を得て中止している。桜や紅葉の時期は人が密集しない場所を探し、少人数で外出する事で季節感を味わうような支援は出来た。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり、個々に出納帳で管理している。本人が買い物希望した場合は職員が付き添い、買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族面会が制限されているので、電話を定期的にかけて合い、お互い元気である事を確認している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用の空間には自作の作品を展示したり、家族が自宅から持参した飾り物を置いたりして、落ち着いて過ごせるようにしている。共用部分は常に清潔を保ち、温度や湿度の管理を徹底し、快適に過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや机の配置を利用者と職員が一緒に考えてみんなが快適に過ごせる場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談し、自宅にある馴染みのある物を持参し、自宅の部屋と同じような環境で過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、出来る事、出来ない事を見極め、職員が支援する事で、自立した生活が送れるような工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>独自の事業所理念「ご利用者様、ご家族様、地域の皆様、職員も共に支え合い、優しさで笑顔あふれるすいーとハンズ物集女にします」を玄関に掲げ、いつでも家族、職員、地域の方に共有できるようにしている。</p>	<p>グループホームの理念は「利用者、家族、地域の人たち、職員が共に支え合い、やさしさで笑顔あふれる」であり、開設時に管理者と職員が相談して策定している。玄関に掲示し、利用者、家族、地域の人、運営推進会議の委員には周知を図っている。新人職員への研修の他、職員会議のたびに確認している。理念の実践について、利用者・家族・職員が支え合うことが大事であると考え、職員同士が日常業務のなかでチームワーク良く、助け合い、教え合っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。</p>	<p>ホームの付近には、郵便局、理美容店、喫茶店、外食店、スーパー、幼稚園、保育園、小学校等があり、必要に応じて利用者も利用している。ホームの日用品や食材料はドラッグストアやスーパーを利用している。地域の自治会に加入、地域の情報を得てコロナ禍の前は、出張カフェ、花セラピー、わくわく体操等の行事で利用者と地域との交流をしている。ホームの扉に事業所の内容を説明した文書や広報誌を掲示している。利用者は車で15分位のらいさおい公園や向日町市民公園にでかけ、散歩しながら四季の風景を楽しんでいる。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p>		向日市北包括センター、向日市社会福祉協	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、運営推進会議の開催を中断している。その代わりに、ホームの現状を上長で話し合った内容施設内会議の議事録を内容を家族、関係者に送付し、周知できるようにしている。	議会、市北地区民生児童委員協議会会長、物集女地区社会福祉協議会サロン担当、更寿会老人クラブ会長が委員となり、隔月に開催している。コロナ禍では書面で利用者状況、事故やヒヤリハット、行事等を報告し、委員から書面で意見をもらっている。意見は「」「」で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初に市役所を訪問し、施設の報告書の提出、運営推進会議の代わりに行った会議の会議録を提出し現状を伝えている。大きな事故があれば、役所に出向き事故報告書の提出と説明をしている。	向日市には必要な連絡・相談を欠かさず、連携を保っている。コロナ禍以前は地域ケア会議に参加、市の介護相談員を受け入れ、毎月訪問を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者には一番に、身体拘束適正化の説明を行っている。身体拘束適正化の研修は年に最低2回は実施している。身体拘束委員会は3ヵ月に1回実施している。	事業所に身体拘束適正化委員会を設置、委員は2人、年に4回の会議をし、日常的に身体拘束の実態を点検している。職員研修は年2回以上実施、職員はやむを得ず拘束をする場合の3要件、スピーチロック等について認識している。現在センサーも含めて身体拘束の事例はない。グループホームの玄関ドア、非常口、ユニットドア、エレベーター等、すべて日中は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	問題点を抽出し、虐待防止の徹底に努めている。 「教育・知識・介護技術」、「ストレスや感情コントロール」、「性格や資質」、「倫理感や理念の欠如」、「人員不足や人員配置」		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使われている方は現在いないものの、その制度や内容を理解しておく事は必要な事なので、研修に取り入れる等で理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族とは、契約時に、契約書、重要事項説明書の読み合わせを行い、当日に押印を求めずに、一旦自宅に持ち帰って精査する期間を設ける事で、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 .	コロナウイルス蔓延防止の観点から、運営推進会議は中止され、家族の面会も制限されているので、電話や、短時間での面会時に、普段の様子を伝えたり、意見、要望を聞いている状況。	コロナ禍で家族の面会は予約制で2人までとしていたが、現在は中止にしている。多い人は3か月ごとに面会に来られ、以前は事業所の行事への参加もあり、家族交流会にも参加があった。現在、家族には利用者の様子と写真を毎月送付している。家族の意見としてはコロナ感染の不安である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映	コロナウイルスの蔓延防止の観点から、職員が会議室に集まったの会議は3密になるので、毎月の会議の代わりに、職員からの意見、要望を管理者に提出し、その内容を上長で話し合い、業務に反映させている。	職員会議ではなく職員全員に意見や要望を書面で書いてもらい、対応や改善をしている。「命にも関わることなので、利用者の食事の見守りは全員を見渡せる位置に必ず1人が必要である」という提案で改善している。法人の研修は毎月施設の官職員は「介護従事者業績評価シート」使い自己評価上司と面談、働く意欲を向上している。法人の研修は毎月各施設の管理者が講師とBなり実施、外部研修の参加については事業所が費用負担している。	
12		○就業環境の整備	勤務状況の把握は、管理者が一括して勤務		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	表の作成を行い、基本的なシフト上の残業ゼロを目標にしている。評価表での人事考課を行い、職員の就業意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはOJT制度を利用。管理者が研修会の講師となり、勉強会を開催している。外部研修についてはコロナ禍での参加は困難なので行えていない。今後はズームでの外部研修があれば、取り入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当日は笑顔でお迎えをして、積極的にコミュニケーションを図る中で、要望を聞き、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時に、不安な事や要望の聞き取りを行い、ケアプランに反映する。入居後、暫くの間は家族に毎日の過ごし方や様子について連絡をして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活習慣などは出来る限り継続できる形を取り、それを組み込んだホームでの生活を支援します。必要があれば他のサービス利用も柔軟に対応できるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、やりたい事の聞き取りを行い、何か役割を持ってもらう。職員と共に行える事なら信頼関係を深める事ができ、一人で出来る事があればそれを担える喜びがあり、生活の質の向上にもつながる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話をかけた際に日頃の様子を伝えているが、何かあれば、こちら側が一方的に決定をせず、家族の考えも取り入れ、共に支えられるように、時に外出をお願いする事でコミュニケーションを図れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス蔓延防止の観点から、面会室で時間制限があるも、家族以外に、知人やペットにも会えるように配慮している。	利用者のかつての職場の仲間が面会にきてくる。利用者は楽しそうに思い出話に興じている。家族が面会に来る時に利用者がかわいがっていた小型犬をつれてきて、利用者は嬉しそうに久しぶりに犬を抱いてかわいがっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、職員が間に入り援助する事で、良い関係性を築き、孤立する利用者が出ないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居しても、転居先の施設の相談員から元気になっているのかを聞く事がある。家族の中には転居後も介護の相談でホームに訪ねて来る事があり、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の聞き取りの他、家族から契約時に、生活歴や、今までの暮らし方の情報を書面にして提出してもらっている。情報が少ない時には日々の会話や面会時、ケアプラン説明時に希望、意向の聞き取りを行っている。	契約時や入居時に管理者、ケアマネ、担当職員が利用者のこれまでの暮らし、医療や介護の情報を収集、利用者や家族のグループホームでの暮らしに対する意向を聴取、記録し、職員が共有している。アセスメントし、利用者、家族、医師等の意見を反映した介護計画をケアマネが作成、職員が検討、確定している。利用者の意向は「ゆっくり歩きたい」「手伝いたい」「ゆったり過ごしたい」等記録している。出身地は京都、城陽、向日等の出身地、5人兄弟の末っ子、父の仕事等、一人っ子、父の仕事や経理の仕事、洋服店勤務等本人の仕事、コンサート、観劇、水泳等趣味	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族をはじめ、病院、施設やケアマネから情報収集し、全職員が情報共有できるようにフェイスシートを作成。会議や申し送りで伝え、情報が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶時の視診で普段との違いを伺い、バイタル測定や食事量を併せて見る事で心身の状態を把握するように努めている。必要に応じて、看護師に連絡し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリングを行い、状況把握した上で、3ヵ月毎にHL、L、CM、担当で話し合い、ケアプランの見直しを行っている。家族には電話連絡時に希望、要望を聞き、プランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアプランに沿った記録等を		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録している。その他、気付いた事は送りノートや訪看・往診ノートに記録。大きな変化があればカンファレンスを行い、ケアプランの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中や、家族面会時の話の中から希望やニーズを把握して、個別レクや受診の支援をしている。各々に合ったケアの提供をする為、福祉用具の検討などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動などは、コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約している病院から、月に2回委託医による往診(看護師の付き添い有り)と週1回の訪問看護により利用者に適切な医療を提供している。往診後に変化があれば家族連絡している。	グループホームの協力医院の内科医が毎月往診してくれており、かかりつけ医となっている。入居前からのかかりつけ医に受診する場合は家族が童虎し、利用者の状況は看護師に伝えている。歯科や認知症の受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に、利用者状況を確実に伝える事ができるようにファイルを用意し、職員が記録出来るようにしている。また24時間相談出来る体制を取り、何かあれば適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院にはすぐにサマリーで情報提供している。早期退院を目指すように、医療連携室とやり取りをしている。隊員が決まれば、病院、家族とムンテラを行い、退院後、スムーズにホームの生活に戻れるように連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については契約時に延命するかの同意書を作成して、家族に意思確認をしている。ターミナルケアは行わない旨を契約時に家族に伝えている。症状の悪化や重度化した場合、主治医の指示に従って対応している。	利用者の重度化や終末期に関する対応については軽薄時に重要事項説明書に明記し、利用者・家族に説明している。グループホームにおける「看取り」については往診医の協力がえられないので、対応しないという方針である。家族は同意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルを日中、夜間別に作成し各階に設置し、すぐに対応できるようにしている。新人が夜勤を始めるときには夜間の救急搬送時の想定訓練や初期対応について研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についてはあらゆることを想定して避難方法を職員に周知できるように日々取り組んでいる。	災害時の避難訓練は火災、夜間等の想定で2年ごとに辞している。地震、風水害については実施していない。備蓄は水、食料、オムツを準備している。ハザードマップは掲示していない。災害時に地域の人の協力をお願いしていない。佐牛がうらぶ疑法人内での相互今	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活習慣等を尊重し、プライドが損なわれないよう、その方に合ったケアや声かけをするように心がけている。また、飲み物や着る物を自分で選択する事で、自己決定が出来る環境を整えている。	利用者への対応や言葉遣いについては基本利用者の人格を尊重し、丁寧な言葉で対応するとしている。信頼関係ができた後は時には親しみやすい言葉にすることもある。暮らしは利用者の生活習慣を大事にしている。利用者に自己選択してもらいたいと意思表示できない人にはその人の気持ちになって利用者と一緒に着る服を選んでいる。飲み物けメ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をする場合でも、こちら側から行動する事に制限をせず、したい事をしたいよう出来る環境作りをしている。職員に余裕がある時は、利用者との会話の中で、その方の思いが汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は9人の利用者を2~3人で介護するので、時には業務優先になってしまう事がある。希望に沿えるように支援したい気持ちはあるも、現状なかなか対応ができていないように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服を職員と一緒に選んでいる。月に一回、訪問理美容でカットと髪染めをして髪を整えている。髭剃りは毎日行い、清潔を保持している。汚れた衣類はすぐに交換し、身だしなみ、清潔に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽をかけて、ゆったりとした雰囲気食べられるように努めている。好みや嚥下状態が違うので、各々の食事形態で提供。盛り付け、テーブル拭き、トレー拭き、食事の号令等を一緒に行っている。	食事は昼食と夕食の副菜はクックデリリーを利用し、他は手作りである。時には食事レクとして利用者の希望するメニューを献立にしている。季節感や行事食を大事にしている。音楽をかけ雰囲気柔らかくして職員も一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食共に、摂取状態に合わせた食事形態で提供している。アレルギーのある食品にも代替食で対応。食事、水分量は記録し、状況に応じて医療に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を、食後は口腔ケアを実施。状況に応じて、全介助、一部介助、見守りにて口腔内の清潔保持に努めている。異常があれば歯科と連携し、早急な対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録からつかみ、その方に合った時間帯でのトイレ誘導を行う事で、失禁を減らし、リハビリパンツやパッドの使用を減らせるように努めている。	尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処理できるという排泄の自立をしている利用者は2人、日中もオムツ使用の利用者は1人、あとの人は職員の声掛け誘導によりトイレでの排泄である。入居後に排泄が改善し、布パンツになった利用者がある。排便は運動、水分提供等工夫している。ほとんどの利	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によっては、定期薬や屯用で薬が処方されているが、適切な水分補給や運動、便通の良くなるヨーグルトや繊維質のある食事提供する事で、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの性質上、現在の入浴状況は、入浴表で管理し、一日で3人程度の利用者が午後の時間で入浴している。入浴頻度は週に二回程度。	入浴は毎週2～3回、時には3回入れる週がある。入りたい日や時間、介助してもらいたい職員、湯温、湯船に浸かっている時間等については利用者の希望に添っている。季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝には居室の空気の入替え、掃除を行い、週に一回シーツ交換を行い、季節に合った寝具を提供している。眠れない時は職員が話を傾聴し、安心してもらえる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用についてはファイルに綴じて、いつでも確認出来るようにしている。服薬方法には十分に配慮している。変化があればすぐに医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を確認し、ご本人から、したい事、出来る事、好きな事等を情報収集し、楽しみ事や役割を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス蔓延防止の観点から、やむを得ず定期的な外出は施設運営上、家族やご本人の同意を得て中止している。桜や紅葉の時期は人が密集しない場所を探し、少人数で外出する事で季節感を味わうような支援は出来た。	利用者は車椅子、杖、歩行器使用の人が多く	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かり、個々に出納帳で管理している。本人が買い物希望した場合は職員が付き添い、買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族面会が制限されているので、電話を定期的にかけて合い、お互い元気である事を確認している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用の空間には自作の作品を展示したり、家族が自宅から持参した飾り物を置いたりして、落ち着いて過ごせるようにしている。共用部分は常に清潔を保ち、温度や湿度の管理を徹底し、快適に過ごせるようにしている。	居室は洋間、表にネームプレートを掛けている。ホームは居室にベッド、クローゼット、洗面台、椅子、机、衣類掛け等を備えている。利用者は寝具一式★を持ち込み、自分の部屋にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや机の配置を利用者と職員と一緒に考えてみんなが快適に過ごせる場所になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談し、自宅にある馴染みのある物を持参し、自宅の部屋と同じような環境で過ごせるように配慮している。	居室は洋間、ホームはベッド、寝具、机、椅子等を備えている。利用者は筆筒、衣装ケース、衣類掛け、机、椅子、絨毯、衣類、仏壇、位牌、遺影、家族写真、アルバム、愛読書、筆記具、レターセット、日記、化粧品、楽器、絵の具、和裁道具、編み物道具、書道の道具、お茶の道具、自作の絵や書、鉢植えの花、花瓶等を持ち込んで、自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、出来る事、出来ない事を見極め、職員が支援する事で、自立した生活が送れるような工夫をしている。		